

平成29年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標		担当	達成基準	具体的取り組み	最終達成状況と評価	
					達成状況	評価
1 学力の向上と 進路の実現	(1)アクティブラーニングの視点をもって授業改善に取り組む、学力の向上を図る。	アクティブラーニング委員会	○全教員がアクティブラーニングを取り入れた授業を実施する。特に今年度は、国語・数学・英語・保健体育・芸術の各教科で研究授業を実施し、アクティブラーニングの視点からの授業改善の完成年度とする。 ○昨年度実施した授業アンケートの質問内容等を見直し、より生徒の意見が授業に反映できるようになる。 ○アクティブラーニングの効果を実感する生徒が80%以上とする。 ○ICT機器が全クラスに導入される予定なので、全教員が授業でICT機器を使用する。	○研究授業の実施に向けて早めに担当者を決め、日程調整し、内外へ広報する。 ○生徒の授業アンケートの項目の原案を先生方に事前に示し、意見をもらい今後の授業改善に生かせるものに資する。 ○ICT機器の操作では、授業だけでなく、LHRや総学の時間でICT機器を利用するように各係と連携する。 ○6月、10月を授業参観月間とし、それぞれの月に、少なくとも2回の授業参観を義務付け(自分の担当する教科、自分の担当とは異なる教科の授業を最低1回ずつ)、授業に対する感想・改善点等を「授業参観シート」に記述し、担当者に渡した。	○生徒の授業アンケートを受け、89%の先生が授業改善、工夫を行い、その効果を生徒が実感している。 ○最終的な生徒授業アンケートの質問内容を4割見直し、どういった学習内容を確認する質問かを示し、わかりやすいものにした。 ○アクティブラーニングを含め、授業改善の取り組みに対して、過半数の先生の授業で、90%を超える高い評価を生徒から得た。(単純平均で86.6%) ○ICT機器の利用は、83%程の利用であったが、生徒からはわかりやすくなったという声が多かった。	A
		国語	○国語科内でアクティブラーニングの手法を検討する。授業でアクティブラーニングを実践しながら、手法を改善し、指導力を高めていく。	○グループワークなどを通して、伝え合う力や思考力を伸ばす取組を行う。	○アクティブラーニングの公開授業を行い、岡山大学の先生から指導助言をいただき、見識を深めることができた。各科目の特徴に応じて、アクティブラーニングの手法を改善しながらペアワークやグループワークを行い、生徒が相互理解をはかったり主体的に考えたりする授業を行うことができた。	B
		地歴・公民	○地歴公民科の授業においてアクティブラーニングを取り入れた実践を恒常的に行之い、学力向上に効果的な手法を研究する。	○グループワークや学びあいなど講義形式以外の手法を授業に取り入れ、生徒の学力向上にとって効果的な方法を各授業担当者が試行錯誤する。	○各授業担当者が、2～3回程度グループワークを取り入れた授業を実施した。しかし教科の性質上、未知の事柄を知識として述べさせる必要があり、アクティブラーニングを意識した展開に時間をかけるには限界があった。また、意見を述べたり討論したりするには、ある程度の知識量を前提にしないと、「感想」の域を超えた深い学びにはならなかった。今後の克服するべき課題を明確化するところまでは行けた。	B
		数学	○アクティブラーニングの研修・研究を行い、効果的な手法を取り入れた授業が展開できるようになる。	○常態的にアクティブラーニングを取り入れた授業ができるように授業改善に取り組む。	○昨年度に引き続きアクティブラーニングの公開授業を実施し、岡山大学の先生の助言をもとに他校から参加の3名の先生とともに研修を深めることができた。アクティブラーニングをより効果的に取り入れた授業の定着と実践が少しずつ進んできている。	B
		理科	次の2つの視点のどちらかのアクティブラーニングの手法を用いた授業を行う。 ○「提示された課題をクラスメイトに説明し、理解してもらえろ」という理解や表現に重点を置いた授業を実施する。 ○実験や観察に重点を置き、思考・判断、技能・表現を必要とする授業を実施する。	○知識・理解においては、数グループの班に分け、互いに教え合うという形態の授業展開を実施する。その際、理解の進んだ生徒から、理解が進んでいない生徒への教授を基本とする。 ○思考・判断、技能・表現については、グループワークにおいて、実験や観察の結果から、法則性や特徴、性質といった事柄を導き出す携帯の授業展開を実施する。	○指導主事を招き、アクティブラーニングをとり入れた探究活動について実験を伴う授業を行った。 ○各科目で実験を取り入れた授業を行い、生徒の主体的な活動を取り入れることができた。また授業内で生徒がみんなの前で発表したり、ホワイトボードを使いグループで考えを共有するなど思考力や表現力を身につける授業を行うことができた。	A
		保健体育	○PDCAサイクルを定着させ、授業アンケートで85%以上の生徒が、主体的に運動を楽しみ、喜びを実感する。	○グループノートの内容を改善し、生涯スポーツに繋がる主体的な思考力の育成を促す授業内容とする。	○個々の運動能力に関わらず、大会の企画、進行などを主体的に行う過程で、スポーツを楽しむ資質や能力を育成する授業展開ができた。92.4%の生徒から授業に対して肯定的な評価を得ており、生涯スポーツにつなげる意識付けとなったのではないかと評価できる。	A
		芸術	○芸術科の授業において、言語活動を取り入れた学習活動を各単元において実施する。	○作品制作前に構想を練ったり、作品完成後に自分の作品を総括したりする際に、言語化、文章化して発表する機会をつくることで、自身の表現活動にフィードバックさせる。	○言語活動を取り入れた授業を行うことに関して、目に見える成果があがっているわけではないが、意見交換やプレゼンテーションを行うことで、多面的なものの見方を養い、自他の新たな良さを発見する一助とできている。	B
		国際系・英語	○アクティブラーニングの視点を取り入れた授業の研究・改善を行い、授業アンケートにおいて生徒の満足度が80%以上となる。	○様々な言語活動においてHowやWhyなど生徒が思考し、問題解決しようとする場面を多くとり入れる。	○ペアやグループの活動を取り入れ、題材となる英文の理解を深めたり、表現活動の授業においても相互の意見交換を行ったりすることにより学習を深めることができ、身の回りや世界に対する問題意識を高め、自ら問題を解決しようとする態度を導いた。また、ICTやプリント教材などを効果的に活用することにより授業の満足度が高まったこともあり、93.6%の生徒から授業に対する肯定的な評価を得た。	A
		家庭	○アクティブラーニングについての校内研修に参加し、家庭科での手法を検討する。 ○授業内でアクティブラーニングを実践しながら、効果的な手法を探る。	○アクティブラーニングの視点を意識し、授業改善に取り組む。	○様々な実験をさせることを中心にグループワークや発表等、複数の手法を取り入れながら、授業展開を行った。生徒の授業アンケートでは95%の生徒が自分の考えを持ち、他者と学ぶことの楽しさを感じている。今後は自分の考えを深めることにより意識した展開を考えていく。	A
		情報	○進学・就職共に困らない程度の情報機器の操作を身につけている。最終的には生徒自身が考え、作成し、プレゼンテーションができるようになる。	○情報機器を使った作品作りなどの基礎を学ばせた後に、グループを組ませ、生徒が自分で考え協力しながらプレゼンテーションを行える様な授業展開を実践する。	○エクセル、パワーポイントの基礎操作知識も習得でき、現在はプレゼンに向け、グループで制作に動んでいる。プレゼンでは、生徒自身が内容を考え、習得した知識を応用しながら取り組めており、パソコンに対する向上意識は高まっているのではないかと評価できる。	B
		教務課	○学校自己評価アンケートにおいて「全ての授業に、発表や教えあいなどの活動的な場面がある。」の肯定的評価する生徒が80%以上になる。	○現在、新教育課程の導入に向けて授業の改善が必要とされ、若手・ベテランの混在する中で授業技術の継承が急務となっている。授業公開、相互見学、特に他教科の見学は新しい視点の取り組みで得るものが大きいので、これらを活性化して学校全体の授業力向上を図る。	○学校自己評価生徒の項目「全ての授業に、発表や教えあいなどの活動的な場面がある」の肯定的評価が77.6%となり、目標は達成できなかった。目標達成のための呼び掛け等の取組も継続的・組織的に行うことができず、また中間評価の改善策であげた研修も実現できなかった。	B
		進路課	○1年は1月実施の校外模試において、7月と比べて、全体偏差値48以上の各度数の人数割合が増加している。 ○2年は7月、11月、1月実施の校外模試において、1年次の1月校外模試と比べて、全体偏差値48以上の各度数の人数割合が増加している。 ○3年では国公立大合格数が51名(22%)以上となっている。	○各学年の進路課が学力向上に向けて具体的な取り組みを提案し、学年団教員と協力しながら実施する。 ○成績の上位層、中位層、下位層の3層に分けて、それぞれに合った指導を行う。 ○M講座の内容などを工夫し、積極的な参加を呼びかける。	○1年は結果はまだ出ていない。上位層と下位層に分けた指導を始めており、学年会議において積極的な指導を呼びかけている。M講座の参加率は昨年に比べて増加した。 ○2年は1年次の1月校外模試と比べて、全体偏差値48以上の各度数の人数割合が7月実施の校外模試は、どの偏差値帯においても増えたが、11月ではどの偏差値帯においても減少した。個別指導や成績3層の指導を始めており、今後の結果に期待している。 ○3年においては、1月15日時点で、国公立大学に21名が合格しているが、目標の51名以上合格は厳しい状況である。	B
		1年	○1日の平均学習時間が3時間以上の生徒が56人(20%)以上、1時間未満の生徒が28人(10%)以下である。 ○外部模試において、3教科の偏差値54以上の生徒が42人(15%)以上、40以下の生徒が28人(10%)以下である。	○教科書等の持ち帰り指導を行い、予習・復習・課題を点検することで、家庭学習の習慣を定着させる。 ○週末や連休に適切な課題を与え、基礎の定着を図るとともに、演習に取り組ませる。	○平均学習時間143分で、3時間以上が平均66人(23%)、1時間未満が平均22人(7%)、11月校外模試では、3教科全国偏差値54以上が43人(16%)、40以下が40人(15%)であった。 ○家庭学習が定着しておらず、基本が身についていない生徒がまだ多い。しかし、着実に学力を伸ばしている生徒もいるので、今後も3教科を中心に、学年全体で取り組んでいきたい。	B
		2年	○1日の平均学習時間が3時間以上の生徒を67人(25%)に増やす【1年1月49人(18%程度)】、1時間未満の生徒を27人(10%)以下にする。 ○3教科の全国偏差値54以上の者を50人以上(18%以上)とする【1年次1月41人(14%程度)】	○ベル着を徹底し、チャイム終わりと同時に授業が始められるようにする。 ○提出物の状況が悪いため、適切な課題を与え、家庭学習の習慣を身につける。出来ていない生徒には居残り学習も実施する。 ○総合学習の時間を利用し、進路意識を高め、進路志望未定の生徒を5%以下(14人以下)とする。	○1日の平均学習時間は、3時間以上が58名、1時間未満が27名であった。この一年間は、各教科から課題の出し方を教科ごとに工夫し、家庭学習に取り組ませ、課題提出の呼びかけを学年全体で取り組んできた。 ○11月模試の3教科の全国偏差値54以上が23名であった。(50以上は75名)7月模試では目標に近づいたが、11月については、5教科体制にもなり、目標数値の半分以下という結果となった。今後、偏差値50付近の生徒の学力向上が必要である。	B
		3年	○1日の平均学習時間が4時間以上、部活動引退後は5時間以上の学習時間を確保する生徒が50%以上になる。 ○M講座の出席率が25%以上になる。	○学習実態調査の結果等をもとに、面談や終礼で綿密に指導する。 ○毎回出席率を集計し、学年や担任が集会や終礼で呼びかけをして参加を促す。	○学習実態調査の目標は達成できなかった。4時間以上・・・66人(29%) ○M講座の出席率の目標は達成できた。平均参加者数・・・60人(26%)	B
(2)生徒・保護者へ進路啓発を行うとともに、教員も進路研究に努める。	進路課	○進路に関するアンケートにおいて、「進路に対する意識が高まった。」と回答する生徒が80%以上、保護者は70%以上となっている。 ○教員アンケートで80%が、進路研究に努め最新の知識が身についたと答える。	○進路通信を定期的に発行し、生徒の進路意識を高めるとともに、保護者にも渡すよう指導する。 ○学年会議や進路検討会議など様々な場面で進路に関する情報を発信する。 ○ホームページに進路に関するページを新設し、生徒や保護者に情報を提供する。	○進路通信は現在まで1年は11号、2年は17号、3年は10号発行しており、生徒の意識付けを行うとともに、保護者に渡すよう指導した。 ○職員会議や学年会議、進路検討会などの様々な場面で、最新の情報を発信した。特に、進路検討会では、全教員の参加を呼びかけ、分担して詳しい情報を伝達した。 ○ホームページ内の進路に関するページを作成し、アップした。 ○進路の意識が高まったと答えた生徒は86.0%で、保護者は83.9%であった。進路研究に努め最新の知識が身についたと答えた教員は91.7%であった。	A	
	図書課	○進路・類型等に関係する図書情報を盛り込んだ発行物を年間6回以上発行する。	○進路、類型等に関係する書籍の利用を促す発行物(「委員会だより」「新着図書だより」など)により、生徒の進路意識の向上を支援する。	○「図書委員会だより」を現在8回発行。新着図書だよりを8回発行。生徒の読書意識、進路意識向上に寄与できたと考える。また、読書活動の促進のために「オリエンテーション」「夏の読書課題」「読書会LHR」で活用を呼びかけた。	A	
	人文系	○講演会・校外行事への参加後のアンケートにおいて、80%以上の生徒が「進路意識の向上に役に立った。」と回答する。	○7月、12月に講演会、10月に校外行事を実施する。	○アンケート調査の結果、2回の講演会、京都への校外研修のについて、約80%の生徒が肯定的な回答をしている。また、2年団が中心ではあるが、オープンスクールを含め人文系全教員が、行事の各部分を分担し、可能な限り負担軽減が行えた。	A	
	理数系	○講演会・校外行事への参加後のアンケートにおいて、80%以上の生徒が「進路意識の向上につながった。」と回答する。 ○岡山県立大学との連携授業により、大学や企業における研究活動の具体的なイメージが高まる生徒が80%以上になる。	○1、2学期に講演会や校外行事を企画実施するとともに、外部団体による各種の催しも積極的に伝え、生徒が自身の能力を伸長させ、進路意識を高めるような機会を設ける。 ○9月中旬に岡山県立大学との連携授業を実施する。	○講演会は7月と12月に2回実施した。(意識向上につながった37%、満足度84%) ○県立大学との連携事業は9月20日午後実施した。(意識向上につながった55%、満足度93%) ○岡山県立大学との連携授業により、大学や企業における研究活動の具体的なイメージが高まる生徒は53%であった。これは、大学の学習内容等の事前指導が不十分であったと思われる。 ○1年生の希望者を集めサイエンスチャレンジに参加した。	B	
	美工系	○美術系大学との教育交流を年間3回以上実施する。	①5月…倉敷芸術科学大学芸術学部の教育実習生授業見学研修 ②12月…岡山県立大学デザイン学部教員による生徒作品の講評会 ③3月…大学教員講師による実技講習会以上の教育交流を企画、実施する。	○具体的取り組みの①②は予定通り実施。1月には倉敷芸術科学大学の卒業制作展鑑賞(冬季鑑賞学習)を実施し、生徒19名が参加して有意義な交流ができた。入力時点で3回の交流を達成しているが、3月に大学教員講師による実技講習会(2種類)を計画しており、4大学と計5回の交流を実施することになる。	A	

平成29年度 学校経営の具体的な取組

岡山県立総社南高等学校

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標		担当	達成基準	具体的取り組み	最終達成状況と評価	
					達成状況	評価
2 豊かな 人間性 の育 成	(1)ルール・マナーを尊重する生徒を育てる。	生徒課	○学校内外において、気持ちのよい挨拶ができる生徒が大半をしめる。 ○交通ルールの遵守し交通事故が3件以内、また、マナー等が向上し、地域からの苦情が10件以内である。	年間、毎週1回、通学路の交通指導と挨拶運動を行う。11月の交通LHRと教員や風紀委員により定期的に挨拶運動を実施するとともに、日頃から担任指導も随時行う。	○挨拶は、概ね良好で地域の方からの評判も良い。また、今年度は2年生男子生徒が善行表彰も受けている。苦情については、交通に関しては9件、マナーに関してが5件の合計14件と目標とする10件を超えた。(昨年度、交通9件、マナー4件、合計13件)	B
		1年	○生徒全員が気持ちの良い挨拶ができる。 ○頭髮や、ボタン・ネクタイ・スカートなどの着用ルールを98%以上の生徒が守ることができている。 ○ロッカーや教室の机の上に物が置かれておらず、授業に臨む姿勢が身についている。	○高校生活の基礎を確立するため、学年団全員で挨拶を励行し、ルールやマナーに対する指導を時機を逃さず、継続的に行う。	○挨拶・身だしなみについては学校自己評価アンケートでも8割以上の生徒が肯定的な答えをしている。もう少し挨拶が多いほうがいいという意見もあるので、今後も気を付けていきたい。また、服装・頭髮は9割以上の生徒がルールを守れている。ロッカーや机上の不要なものは全くなくなってはいないが、教員の指導に従っている。	A
		2年	○携帯・スマホ指導を強化し、昨年20件以上の指導数を、10件以内とする。(件数以上に携帯スマホに依存している生徒が多いと推測できる。勉強にも悪影響を及ぼしている)	○昼休みや放課後に、生徒課を中心として巡回指導をする。	○携帯・スマホの指導は1月現在で11件であった。目標の数値にほぼ近い結果であり、昨年の半分程度にはなった。昼休みや放課後に、生徒課をはじめ、学年でも見回りの週間を設けたりし、重点的に生徒指導を徹底した。南翔祭以降は落ち着いた姿が見られた。	A
		3年	○生徒全員が気持ちの良い挨拶ができる。制服の着用ルールを97%以上の生徒が守ることができている。 ○ほとんどの生徒が、ロッカーや机など身の回りの環境を整備できている。	○制服の着用ルールを遵守していない生徒を見逃さず指導する。 ○清掃時や終礼時に机やロッカーをチェックし指導する。	○生徒指導上の大きな問題は全くなく、安定した学校生活が送れていた。身だしなみは整い、挨拶もよくできていた。 ○教室環境は、試験期間中にロッカーの上が乱れることもあったが、おおむね整っていた。	A
	(2)生徒会活動・学校行事・社会貢献活動等に積極的に取り組み、自己有用感を覚える生徒を育てる。	生徒課	○部活動を活性化するために入部率を80%以上とする。 ○戦績は、中国大会以上の出場を15以上とする。 ○南翔祭等の各行事において、クラスやチームで協力や団結する姿が感じられる。	○4月に各部紹介を行い、部員を勧誘する。 ○日々、顧問が部の活動場所に向き、生徒と関わり活動を活性化させる。 ○各行事ごとに計画・立案・運営に関わり、教員が生徒を支援する。	○部活動の実入部率が80%を超え、中国大会以上の出場数は15(中国6、全国9)になった。南翔祭等の行事に積極的に取り組んだ。	A
		図書課	○各委員が割り当てられた図書委員会だよりを新しい企画を含め作成し、年間10回発行する。	○「図書委員会だより」発行やカウンター当番、清掃活動を通して読書活動に広く係わることで、利用しやすい図書館作りに意欲的な生徒を育てる。	○カウンター当番、清掃活動、図書整理、「図書委員会だよりの発行」(1月現在8回発行)、南翔祭企画「本のムシ」を制作し図書館廊下へ展示、読書会LHRの企画・実行(くつらす生徒の指導)など、全校生徒の関心を図書館へ向けることに力を尽した。	A
		社会貢献活動委員会	○地域とのかかわりを中心に実施する社会貢献活動が、地域・社会福祉協議会・小中学校などから好評評価を得て、自己評価アンケートでは89%以上が肯定的評価をする。	○年間を通じて、総社市社会福祉協議会との連携を中心として、市内14地区・総社市教育委員会・各種団体・施設などとの連絡や調整を密に行い参加生徒の募集と調整を行う。	○自己評価アンケートでは、充実感を持つことができた生徒が77.8%であった。1年生と3年生は80%を超えていたが2年生は68%でやられている感を持ったと思われる。しかし130件に増えた依頼件数は、地域から好評評価されて定着しているものと思われる。	B
		国際系	○外部主催行事への積極的参加を促し、参加した生徒が事後の調査において「充実感・達成感を得、学習意欲・英語力が向上した」と答える。	○行事を精選し、積極的に参加を呼びかける。 ○参加生徒への指導を分担し、適切に行う。	○外部主催の各種コンテストに応募・参加し、総じて良い成果を得た。県主催のエッセイ、レターコンテストでは入選、優秀賞を、JICA海外協力エッセイコンテストでは佳作という好成績を得た。グローバルワークショップへ9名も参加し、全員が充実感・達成感を得たと回答している。今年度はディベート大会に参加できず残念ではあったが、昨年参加できなかったスピーチ大会に参加した。	A
		美工系	○各種コンクールにおいて、延べ70人が入賞する。	○各種コンクールを通して、挑戦心や自己開拓心を育成するために、授業や部活動においてきめ細かい指導を行い、生徒作品のレベルの向上をはかる。	○入力時点で70人の入賞を達成した。今年度は特に、総文祭県代表2名選出、「高校生絵のまち尾道四季展」での最高賞受賞、読書感想画岡山県コンクールでの最優秀賞受賞等、内容的にも大きな成果をあげることができたと考える。	A
	(1)各分掌内の協力体制を充実させ、分掌間の連携を密にすることで、学校全体としての組織力を更に高める。	運営指導部	○学校全体として足並みを揃えた組織力向上の実感について、教職員アンケートにおいて肯定的な評価が80%以上となる。	○運営指導部会を月2回開催し、校内組織として情報を共有することで、風通しの良い連携が十分になされた職場をつくる。 ○生徒と向き合う時間の確保と勤務負担軽減に向けて、見直しと新たな取組を行う。 ○定時退校日を週に1回設けるとともに、最終退校時刻を20時と設定した。	○今年度も意見や提案から3つの新しい取り組みがなされた。また、勤務負担の軽減について新しい取り組みが導入されたが、達成率は46%であった。学校全体として足並みを揃えた組織力向上の実感は、昨年よりも一歩進んだ。68%であったが、昨年よりも各分掌の協力体制が充実し学校全体の組織力が向上し業務がスムーズになったと38%が実感している。	B
		教務課	○学校自己評価アンケートの教員の協力体制に関する質問項目「教職員が学校の目指すべき方向性を共有し、共通した指導が図れている。」が62.0%と昨年より下がった。 ○新設した組織力に関する質問項目には「昨年度に比べ」という表現があり、今年度加わった教職員にとって評価できないという不備もあった。教務課として全体の改善を図るべきだったが課内の改善に精一杯で、全体としての効率化につながるまで至らなかった。	○教員の多忙化が話題になっているが、本校でも土日日の出勤者が増えたり、平日も遅くまで残って業務をこなす姿をよく見るようになった。教務課だけではできないことは少ないが、行事や業務の精選を積極的に提案していきたい。 ○ミスやトラブルがあるとその対応に大きな負担がかかるので、ミスが出にくい仕組みや日程を検討して提案することで組織力を更に高める。。	○学校自己評価教員の肯定的評価が項目「教職員が学校の目指すべき方向性を共有し、共通した指導が図れている。」が68.0%、「教職員全体で授業力向上に向けた組織的な取り組みが行われている。」が62.0%と昨年より上がった。 ○新設した組織力に関する質問項目には「昨年度に比べ」という表現があり、今年度加わった教職員にとって評価できないという不備もあった。教務課として全体の改善を図るべきだったが課内の改善に精一杯で、全体としての効率化につながるまで至らなかった。	C
		進路課	○学力向上に向けての取り組みの中心的存在が進路課であることを意識して、進路課内の業務を協力して行うとともに、学年や学校全体と連携している。学校自己評価アンケートにおいて、80%の教員が協力体制が高まり、組織力が向上したと答える。	○各学年会議において、進路課から資料を示し、連携を意識しながら計画的に業務を進める。 ○課会議において各学年の業務を相互に確認し、協力体制をとる。 ○校外模試の分析資料などは進路課全員が作成できるようにする。	○学年会議において、進路課から説明する資料を必ず用意できた学年と用意できなかった学年があった。用意した学年では、説明することで連携を意識し、計画的に業務が進められた。 ○課会議において、各学年からの報告を受け、協力体制を構築するよう努めたが、教員アンケートにおいて、協力体制が高まり、組織力が向上したと答えたのは、62.55%であった。 ○校外模試の資料作成・分析は、進路課の先生方の全員ができるようになった。	B
		図書課	○放送ガイド、視聴覚教室マニュアルを用いて、視聴覚係として機器等の運用が確実にできる。 ○使用方法等を校内の他の分掌や学年への伝達講習を3回以上行う。	○放送ガイド、視聴覚教室マニュアルを用いて、視聴覚係として機器等の運用が確実にできる。	○放送ガイド、視聴覚教室マニュアルを体育館放送室に常備しいつでも見られる状態である。南翔祭を含め図書課員以外への放送室利用時は機器等の運用を含めて確実にしてもらえるように教えた(3回以上)。式典などが支障なく行われるように心がけた。	B
		国際系	○姉妹校との交流事業で、特に受け入れ時に全スタッフで協力して事に当たり、姉妹校教員および短期留学生全員が滞在期間を充実して過ごせる。	○バランスのとれた業務分担をし、常に情報を共有する。	○姉妹校からの短期留学生と引率教員からとても高評価を得た。全員で協働して臨機応変に対応できた。	A
3 教育体制の整備	(2)学校生活を安心・安全・快適に送ることができるように、教育環境の整備を推進する。	厚生課	○生徒が清掃活動に積極的に取り組み、校内の美化が保たれている。学校生活アンケートで清掃への取り組み具合がほぼ良好という回答する生徒が70%以上を数値目標とする。	○生徒に「自己評価」をさせる機会を作る。 ○厚生課で随時校内を見回り、校内環境を把握する。その上で、必要に応じて担当者(清掃監督)に改善を依頼する。	○学校自己評価アンケートより「アンケート対象:29年度%~28年度% 「安全で落ち着いた学習環境が整えられている」 生徒:84.9~89.7 保護者:94.3~95.0 教職員:76.0~66.0 「学校は清掃や環境の整備に積極的に取り組まれている」 生徒:80.3~81.5 保護者:87.5~88.5 教職員:58.0~63.8 ○生徒、保護者の評価は若干の減少はあるものの昨年度とほぼ同等である。教職員の整備への取り組み評価の減少率が多い。行事前の大掃除が時程のために、実施しにくいなどが原因である。 ○学校自己評価アンケートの保護者の回答には、トイレが汚れているとの指摘があったので、次年度は、トイレの清掃を重点的に行う。	B
			○生徒が避難訓練に真剣に取り組んでいる。実施後のアンケートで真剣に取り組むことができたという回答する生徒が60%以上を数値目標とする。	○緊急時の対応に備えて、効果的な事前指導を行うなど、実践的な防災避難訓練を計画・実施する。	○第1回避難訓練の生徒自己評価の集計結果では、65%の生徒が「自分自身は真剣に取り組んだ」と回答し、55%の生徒が「周囲の人も真剣に取り組んだ」と回答した。 ○中間達成状況と同じ、来年度も今年度と同様の避難訓練を計画実施する予定である。	A
	(1)本校の特色や授業内容を紹介しながら、総社南の教育内容を中学校・保護者に積極的に発信する。 (2)様々な機会を通して、「チーム総社南」としての本校の活動を計画的に発信し、総社南ブランドを育てる。	総務課	本校の様子を様々な取組によって積極的に発信することによって、様々なつながりを構築し、 (1)志望調査において定員の1.2倍以上を目指す。 (2)サーバークエスト件数を平均100,000以上/月を目指す。 (3)総社地区生徒数の割合30%以上を目指す。	年間を通じて、HP・ブログの更新を積極的に行い、10月までに (1)オープンスクール、学校見学会、中学生保護者対象学校説明会を開催する。 (2)総社地区中学校、中学校訪問、学習塾訪問を実施する。 (3)学校案内、チラシ、ポスター、MINAMINEWSを発行する。	○HPの更新は適宜できており、ブログも一定の割合で投稿されている。また、外部よりHPを見て応援メールをいただくこともあった。 ○HPリクエスト件数(4~12)平均132,713件 ○OSや学校見学会参加者が昨年より増加した。 ○第一次進学希望調査1.18倍 ○出張説明会 中学校5校 塾5回	A
		人文系	○人文系の行事や活動の様子を、年6回以上ホームページやブログ等で発信する。	○人文系独自の活動状況を記録し、1学期にホームページ・ブログ、2学期ブログ・みなみニュース、3学期に人文系新聞・ブログ等で発信する。	○人文系校外研修で、ブログへのアップを2回行ったが、みなみニュース等での情報発信はできなかった。	C
		理数系	○理数系の行事や日頃の活動の様子などを、学期ごとに2回以上ホームページで発信する。	○理数系の活動状況などを記録し、生徒の感想とともにHPIにアップする。	○県立大との連携事業、講演会、サイエンスチャレンジ岡山に参加したことをブログにアップした。	B
		国際系	本校国際系の独自性を広報し、 ○特別入学者選抜において、昨年(57人)以上の志願者を集める。 ○新2年生の国際系選択者が50人以上になる。	○姉妹校との交流事業を随時ブログにあげる。 ○姉妹校訪問時には、市長表敬訪問や近隣小学校訪問等により、地域との連携をより一層深める。 ○国際系独自の授業や活動をホームページで紹介する。	○国際系のイベント情報等を逐次ホームページ上で公開した。現時点では、特別入学者選抜の志願者数は不明である。現1年生の来年度国際系選択者は49名である。	A
		美工系	○美工系に関するブログ記事の更新を、年間30回以上行う。 ○美工系作品展(12月)で作品を400点以上展示し、600人以上を集客する。	○ブログ記事により美工系の活動や成績を広く発信し、中学生や保護者、地域にPRする。 ○美工系作品展(12月)、高美展(2月)、Because展(3月)の展覧会で学習成果の発表を行い、美工系と共に総社南高校のPRを行う。	○入力時点で美術工芸系のブログ記事は35回更新し、様々な活動を紹介することができた。 ○美術工芸系作品展(12月)では、449点の作品を展示した。会期中には中学生をはじめとした559名の来場者があったが、目標の600名には達しなかった。3月のBecause展で多くの来場者を集めたい。重点校には、足守を除く14校に展覧会ポスター等を持参し広報を行った。	A